



2014 年 2 月 第 12 巻第 2 号

かく語りきー聖人の言葉

「霊的生活のゴールに到達すると、ハートには慈悲心だけが残る」
(シュリー・ラーマクリシュナ)

「まことに神は慈悲深くあられ慈悲を好まれる。冷酷な者には与えないものを、慈悲深い者にお授けになる」
(預言者ムハンマド)

今月の目次

- ・ かく語りきー聖人の言葉
- ・ 2014 年 4 月の予定
- ・ ヴィヴェーカーナンダ・ヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・シカゴ、スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周年を祝う
「シカゴ・コーリング」開催
2013 年 11 月 10 日 ヒルトン・ホテル来賓の講話
「スワミー・ヴィヴェーカーナンダの完璧な人の概念」
スワミー・メーダサーナンダ

- ・ 訃報
- ・ 2014 年 1 月の逗子例会
第 162 回ホーリー・マザー
シュリー・サーラダー・デーヴィー
生誕祝賀会
- ・ 忘れられない物語
- ・ 今月の思想

4 月の予定

4 月 3 日 (木) ～6 日 (日)
スワミー・ヴィヴェーカーナンダと岡倉天心の展示会
場所：インド大使館：03-3262-2391
時間：11:30～17:00
入場無料、本のプレゼントもあります

4 月 5 日 (土)
東京・インド大使館例会 14:00～16:00
講義：バガヴァッド・ギーター (無料)
場所：インド大使館：03-3262-2391
お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

4 月 6 日 (日)、13 日 (日)、20 日 (日)、27 日 (日)
ハタ・ヨーガ・クラス 14:00～15:30
場所：逗子本部別館 (アネックス)

＊体験レッスンもできます
お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

4月10日（木）～13日（日）
マハーラージ、熊本訪問にて不在

4月12日（土）
スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生
誕記念祝賀会 in 熊本
お問い合わせ：090-7397-2013 村田

4月20日（日）
逗子例会 10:30～16:30
場所：逗子本部本館
午前：マハーラージの講話
午後：賛歌朗誦・輪読・講話

4月25日（金）
ナラ・ナーラーヤナ ホームレスへの
奉仕活動
現地でのお食事配布など。
お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304

29日（火）
アカンダ・ジャパム 5:00～20:00
場所：逗子本部本館シュライン
その他：食事を提供します。
連絡先：三田村(dd94dd94@nifty.com)
＊4月20日までにご希望の時間帯
（1時間単位で何時間でも）をご連絡く
ださい。

**ヴィヴェーカーナンダ・ヴェーダーン
タ・ソサエティ・オブ・シカゴ、**

**スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生
誕 150 周年を祝う「シカゴ・コーリン
グ」開催**

**2013 年 11 月 10 日 ヒルトン・ホテル
来賓の講話**

**「スワミー・ヴィヴェーカーナンダ
の完璧な人の概念」
スワミー・メーダサーナンダ**

あるときスワミー・ヴィヴェーカーナンダが兄弟弟子に「まず私を理解しなさい、そうすればシュリー・ラーマクリシュナのことを理解できるでしょう」と諭しました。スワミー・トゥリーヤーナンダは、彼自身、悟った魂であり、聖典の学者でもあり、スワミージーの兄弟弟子でしたが、あるときこの言葉の意味について質問を受けました。トゥリーヤーナンダジーは、スワミージーは完璧な人間であるので、まず兄弟弟子は、神の具現化したシュリー・ラーマクリシュナを理解する前に彼のことを理解するべきだ、と答えられました。

さて、ではトゥリーヤーナンダジーが述べた完璧な人間の定義とは何でしょうか、スワミージー自身が模範なのでしょうか。

ある意味で完璧な人間とは神話といえるでしょう。とりわけ、自分自身を身体と心の複合体だと考え、サットワ、

ラジャス、タマスという 3 つの質（グナ）に支配されている人にとっては、そうでしょう。これらのグナは物質から作られ、物質には限界があります。これらのグナを超越し、あらゆる不完全さとすべての汚点から自由な、純粋な意識、霊性を悟らなければ、完璧性を達成することはできません。故にこれらのグナを超越した魂は、完璧な魂と同じであるといえるのです。



おもしろいことに真実を悟った魂は、ほとんど信仰、知識、瞑想のどれかひとつの道を歩んでいます。これらの魂が教え始めたとき、彼らは自分が歩んで来た道だけを強調します。それゆえに、スワミーजीが観察したように「この世には多くの先生がいても、ほとんどが、信仰だけ、知識だけ、瞑想だけというように一面的だということがわかるでしょう。」

多元的な完全主義

スワミーजीは彼の提案を質問の形で進めました。「なぜ均等に行動的で、

知識があり、存在しているような巨人はいないのであろうか。それは不可能なのだろうか。決してそんなことはないはずだ！これこそが現在ほとんど存在しない将来の人間である。」スワミーजीと彼の兄弟弟子のすべては、そのような人間だったと推測します。

さて、では、この時代に新しい多元的な完全主義の傾向を持ち、自分で真理を実現するさまざまな道を実践し、それらを調和させ、至高のヨーガと信仰、知識、仕事を具現化することで弟子たちの人生を形成できるように教えたのは、誰だったのでしょうか。その人こそが、この時代の偉大な神秘主義者、シュリー・ラーマクリシュナだったのです。彼は、比類なく容易で、それでいて奥深い方法でよく弟子にこう言いました。「単調になるのではないよ、それは私のやり方ではない」

完璧な人間をめざしたい人は、彼の人格を身体、心、言葉において統合し、自分自身を肉体的、精神的、道徳的、知性的に、そして何よりも霊的に発展させてゆくべきです。言うまでもなく、そのような霊性は一面的であってはならず、異なる霊性を組み合わせるべきです。そうでなければ、内なる完璧性の可能性を完全に具体化することはできません。シュリー・ラーマクリシュナとヴィヴェーカーナンダ両方にとって、完璧な魂とは、全体的で多元的で

あるべきなのです。

ここで少し個人的な体験をご紹介します。私は旅行中、空港や飛行機の中でときどき私のサフラン色の服装を見た人に、「ハレー・クリシュナの方ですか。」と聞かれます。私がハレー・クリシュナ運動、ISKCON（クリシュナ意識国際協会）に所属しているのではないかと推察しているのです。私は「いいえ、私はラーマクリシュナです！」と答えます。この答で皆、たいてい混乱して、さらに尋ねてきます。「ハレー・クリシュナとラーマクリシュナの違いは何ですか。」私は、「違いは、『だけ』と『も』なのです。」と答えて、説明します。「ハレー・クリシュナ、つまり ISCKON は、シュリー・クリシュナ『だけ』を礼拝しますが、私たち、シュリー・ラーマクリシュナの信者は、他の化身やクリシュナ『も』礼拝します。」皆さん、ですから『だけ』は排他性を意味しますが、『も』は、包括性を意味します。排他性は、不寛容、憎しみ、不調和を生み出しますが、包括性は受容、愛、調和を生み出します。ですから、完璧な人は包括的で多元的であるべきです。

シュリー・ラーマクリシュナは、スワミーजीや他の僧院の弟子たちに訓練を授け、彼らを完璧に育て、理想のモデルである新しいタイプの人間を作る使命を彼らに、特にスワミーजी

に託しました。だからスワミーजीは「私の使命は人を創ることです。」と宣言し、彼のグルから託されたこの使命を果たすために生涯を捧げたのです。

スワミーजीは、完璧な人を概念化しただけではなく、この概念をエンブレムに象徴化し、自分が創立した僧院で導入した方法によってこの概念を実現しました。ラーマクリシュナ僧院のエンブレムは皆さんご存知のとおり、ギャーナ・ヨーガを象徴した太陽、バクティ・ヨーガを象徴した蓮、カルマ・ヨーガを表わした波、ラージャ・ヨーガの象徴、蛇、パラマートマン、究極の实在を象徴した白鳥から構成され、この究極の实在は、これら 4 つのすべてのヨーガを組み合わせることで悟ることができるのです。僧院での毎日の日課にある実践的な方法に従うことで、これらのヨーガすべてを調和的に実践することが可能になります。私たちのアシュラマの毎日の予定をみれば、僧院では瞑想することでラージャ・ヨーガの実践を行い、バクティ・ヨーガは、寺院に行き、シュリー・ラーマクリシュナを礼拝し、夕拝に行き賛歌を歌うことで実践します。カルマ・ヨーガはさまざまな種類の無私の奉仕を行うことで実践し、また聖典を学び、究極の实在に焦点をおいて識別を行うことでギャーナ・ヨーガを実践します。

あるとき、スワミー・プレメーシャナンダジーという僧院の尊敬すべき高僧であり、多くの人々を霊的な生活に導いた方が、若い僧に意見を述べられました。「僧院の日課を毎日気づきをもって誠実に行えば、霊的な修行の実践のために山や森などの人里離れた場所に行く必要がないだけでなく、アシュラマで生活するだけで完璧な僧侶になることができるのだよ。」そのような僧侶たちが実際に僧団にいることでどんなにか私たちが恵まれていることでしょう。僧院に住み、日課に従い霊的な実践と無私の奉仕を行うのです。なかには、マダーヴァナンダジーや、ヴィレーシュワラナンダジーなどの有名な僧侶もいれば、あまり知られていないスワミー・ムクタナンダ、一般的にはベナレスのボンババ、またはボンビハリー・マハラージで知られている僧侶もいます。彼はほとんど僧団のヴァラナシのサービス・ホームに住み、アシュラマの日課に従って、病院で外傷用の包帯を巻くという同じ仕事をしてきました。どんなに不快な悪臭がしても、毎日毎日、60年間あまり元気な心で陽気に最大限の献身で行い自分自身を完璧にしたのです。

もし我々が本当にスワミージーを現在の預言者として信じるのであれば、彼がラーマクリシュナ僧院の理想としてデザインしたエンブレムについても信じるべきであり、ラーマクリシュナ

僧院の日課として4つのヨーガすべてを実践する方法は、僧院の僧侶や信者だけのものではなく、世界中のすべての意欲を持つ人々が見習って自分を完璧にしてゆくべき指針なのです。

グナを超越する

人格を育てるという福音を説くにあたり、スワミージーは、主にアシュターンガ・マルガ、8つの道を強調しました。最初のそして最高の教えは魂の目覚めです。あるときスワミージーがアートマンについて講演したときに、聴衆が勢いよく突進して言いました。「スワミー、あなたは私たちをアートマンだと確信させて催眠術をかけようとしているのではないのでしょうか。」スワミージーは、彼女にこう断言しました。「いいえ、マダム、あなたはすでに催眠状態です。私はあなたを催眠から呼び覚まそうとしているのです！」

スワミージーは、人は身体ではない、心でもない、エゴでもない、人はアートマンであるという考え方を強調しました。私たちが抜け出すべき最大の迷信は、「私は身体である」と、また「我々の心がマーヤーである。」、そしてそこから解放されるべきだと、彼は説きました。私たちのすべての苦しみ、恐れ、利己主義の根本的な原因は、本当はアートマンである私たちが、自分を身体

である、心であると、間違って認識しているからなのです。この状態が催眠状態であり、これが完璧をめざす私たちの最大の障害となっているのです。

私たちが完璧になるために役立つ、スワームージーが繰り返した重要な考え方があと 7 つあります。これらは説明不要、一目瞭然です。

1. シュラッダーを培うこと、つまり神への信仰、自分自身への信仰を培い、すべての力は自身の内にあることを信じ、その力を表わしなさい。
2. 親切に慈悲の心で、他者の中に神を見て奉仕しなさい。
3. 純粹であり、道德の中心である自己犠牲を実践しなさい。
4. 自分の信仰を固く持ちながらも、他者の信仰を尊重しなさい。
5. 激しい活動と不変の静けさを組み合わせなさい。
6. 執着と無執着の両方を実践しなさい。
7. 学ぶことを培いなさい。

スワームー・ヴィヴェーカーナンダの完璧な人間という概念では、そのような人は気高い考えを持つだけではなく、それを行動に転換できる力を持つべきなのです。これは強靱な身体と意志の力なくしては不可能です。そこでスワームージーはよく繰り返したのです。神経を強く鍛えなさい。必要なのは鉄

の筋肉と鋼の神経なのです。

完璧への道程には走り幅跳びも高跳びもありません。ですから、スワームージーは、完璧への道程を計画している間に、求道者に対し、急ぐことなく突如としてではなく、徐々に自らを変えていくよう助言したのです。求道者の変革のために、スワームージーは、インド哲学独特のトリグナという概念を使い、求道者の状態により、タマスの状態からラジャスの状態へ、そしてラジャスからサットワの状態に、そして最終的にはサットワも超越するようにと助言しました。故に、西洋ではほとんどラジャス的な人々にサットワの状態に変えるようにと提言していましたが、インドではその時代、人々はサットワといいながらタマスの状態に浸っていました。スワームージーはラジャスの状態への転換をめざし、それからサットワへと助言しました。両方とも最終目的は、3つのグナを超越して自由に、完璧になることです。

忍耐と警戒

完璧性について議論したのはスワームージーだけではなく、このテーマはさまざまな聖典や世界中の宗教指導者や哲学者の考えの中で語られています。たとえば、バガヴァッド・ギーター、バーガヴァタム、マハーバーラタのシャンティ・パールヴァ、仏陀の八正道、

新約聖書の山上の垂訓などすべてにそれぞれの表現で同じテーマが語られています。またフリードリヒ・ニーチェの哲学的なスーパーマンやバーナード・ショーのスーパーマンのドラマ化があります。しかし、スワームジーの完璧な人間という概念が他に比べて何が際立っているかという点、大変よく定義され、全体的で普遍的、そして実践的であり現在という時代に合致することです。それだけでなく、彼のその概念の説明が非常に力強く、貫通性があり、白黒の印刷であっても私たちの心に突き刺すような迫力でショック療法を与え、私たちが変わるように仕向けるのです。それゆえにスワームジーの誕生から 150 年を経ても、理想を愛する多くの人々はヴィヴェーカーナンダを頼りにするようになり、彼を友人、哲学者、指導者として受け入れるのです。これは特にインド人の若者にあてはまります。

完璧を目指す道のりは、よく剃刀の刃を歩くことに例えられますが、易しい快適な道のりではなく、目的にたどり着くには、永遠の警戒と無限の忍耐が必要です。これなしには、失敗や道筋から離れてしまう危険が必ずあり、実践者は落胆し、修行そのものをあきらめてしまうかもしれません。

スワームジーはこの問題を完全に気づいていました。そして、そのよう

な修行者にこう言って励ましました。「失敗は気にしないことだ。失敗は当然のことであり、それは人生の美しさだ。闘いや失敗を悔やんではいけないよ。1000 回も理想にしがみついて、たとえ 1000 回失敗したとしても、あともう 1 回やってみることだ」

完璧を目指した旅人に対して、スワームジーがよく助言していたもうひとつの言葉は、この道を歩みながら、同じ目的を目指している仲間を助けるべきだ、というものです。「理想となり、理想を作る」ことが彼の有名なもうひとつのモットーとなりました。

社会的側面

完璧な人というこの概念とその実現には、社会的側面があるのでしょうか。はい、あるのです。最大の広がり、最高の普遍性、最高の誠実さで、シャンカラの知性と仏陀の真心がこの完璧な人に組み合わさっているのです。スワームジーは、完璧な社会は、これらの完璧な人で構成されることを信じていました。なぜなら社会というのは個人の集合体以外の何物でもありません。

しかし、そのような理想の社会を実現するには、各個人が自らを理想の人間になることに挑戦しなければならないのです。ここに真の問題があるのです。人気のあるマーフィーの法則のように、

社会を変えるには 4 つの法則があります。それらは、

第 1 の法則 誰もが社会を変えたがり、完璧にしたいと思っています。

第 2 の法則 誰も自分を変えたくありません。

第 3 の法則 誰もが他人が変わることを望んでいます。

第 4 の法則 最終的に誰も変わらないので、社会はそのままです。

ですから、他人が変わることを期待せず、また他人を変えようとせず、まず私たちがそれぞれ自分自身を変えることを始めようではありませんか。



最後に私はある物語を紹介して終わらせたいと思います。ムッラー・ナスィールッディーンという伝説的なのスーフィーの賢人の物語です。あるときナスィールッディーンは広場の近くに悲しそうな雰囲気の中で座っておりました。人々は気になって尋ねました。「ムッラーのだんなさん、こんにちは。何をくよくよ悩んでいるのか話しておくれよ」

ナスィールッディーンが答えました。「このいまいましい社会を変えたいんだ、だからどうやったらできるかを考えているところだ」

1 年後、ナスィールッディーンは同じ場所に同じ状態で座っていました。そこで人々はまた尋ねました。「ムッラーのだんなさん、去年は社会をどうやって変えたらよいかと考えていたけれど、何か方法は見つかったのかい？」

ナスィールッディーンが答えました。「仲間たちよ、社会を変えることは難しすぎるのがわかったんだ。そこで今は、あまりにもたくさんの欠点がある自分の家族をどうやって変えたらよいかを考えているところだ」

人々は「それもなんと素晴らしいことでしょう！」と感想を述べました。しかし、また 1 年が過ぎ去っても、まだナスィールッディーンは、同じ場所に同じように憂いな顔をして座っておりました。人々は耐えられなくなって大声で叫びました。「ムッラーのだんなさん、なぜ今もそんなに深く悩んでいるのかい？」

ナスィールッディーンは、打ち明けました。「兄弟たちよ、社会だけではなくて自分の家族を変えることも難しいことがわかった。だから自分をどう変え

たらよいか考えているのだ！」

さあ、みなさん、今こそ私たちもナスイールッディーンのように考えて、自分たちを変えるために行動を起こしましょう。スワームジーが私たちにとってほしいと望んでいた完璧な人になるように、そうすれば社会も完璧になるのです。

ありがとうございました。

訃報

私たちの大切な友人であられる奈良毅教授が、ご病気のため1月20日夕刻、永眠されました。ここに謹んでお知らせいたします。

奈良先生とラーマクリシュナ・ミッションの関係は大変長く、1950年代、先生がコルカタ近辺にあるラーマクリシュナ・ミッションの支部に約5年間滞在されたのが始まりです。この間に先生はカルカッタ大学で博士号を取得されました。先生は、スワーム・ヴィヴェーカーナンダ生誕150周年祝賀委員会の副委員長、およびラーマクリシュナ・ミッションの支部である日本ヴェーダーンタ協会役員会の副会長も務められ、日本におけるヴェーダーンタ運動推進のために貴重なご支援を賜りました。ヴェーダーンタの信奉者にとって掛け替えのない存在であった奈良

先生が逝去されたことは、痛恨の極みです。

奈良先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



2014年1月の逗子例会

第162回ホーリー・マザー シュリー・サーラダー・デーヴィー生誕祝賀会

1月19日（日）の逗子例会では、別館（アネックス）にて第162回ホーリー・マザー シュリー・サーラダー・デーヴィー生誕祝賀会を開催しました。

プログラムは午前6時に始まり、本館2階の礼拝室でマンガラ・アーラティ、聖典の輪読、聖句詠唱、賛歌朗唱を行い、その後7時30分まで瞑想しました。今回も祝賀会準備のためにボランティア・スタッフが前泊され、女性はホーリー・マザー・ハウス、男性は本館に泊まれ、朝拝の後7時45分頃から朝食を取られました。その後準備作業を

再開、祭壇を飾る花や供物の準備、イスや音響機器、プージャ（儀式）用のステージの設置などをお手伝いしました。



午前 11 時過ぎ、スワミー・メーダサーナンダ（マハーラージ）は別館 1 階に設えた祭壇と供物、花輪、ブーケなどの配置を丁寧に確認して、プージャを執り行いました。そして少し瞑想した後、アーラティ（火の儀式）を行いました。続いてマハーラージのリードにより参加者全員でヴェーダの聖句を詠唱し、プシュパンジャリ（花の奉献）を行いました。



その後本館に移動し、1 階の食事室と 2 階の集会室に分かれて昼食のプラサ

ードをいただきました。主なメニューはインド・カレーでベジタリアン・カレーと魚のカレーがあり、いつものようにソフィヤさんを中心としたボランティアの方々にご準備いただきました。



午後 2 時 30 分、再び別館で午後のプログラムが始まりました。初めに皆で聖句を詠唱し、『ホーリー・マザーの福音』を英語と日本語で輪読しました。次にマハーラージが「ホーリー・マザーの母性の特徴」をテーマに講話を行いました。マザーは社会階級や宗教に関係なくすべての人の母でありマザーの無執着の愛は万人に向けられていたこと、マザーの生涯から学ぶべきことなどについてお話がありました。

通訳は佐々木陽子氏でした。



した。最後まで残ってお手伝い下さったボランティアに午後 8 時頃から夕食が振る舞われました。祝賀会の参加者は約 50 名でした。



その後、5 名の信者さんのリードにより参加者全員で日本語の賛歌を歌いました。そして、皆で瞑想をした後、本館に戻って茶菓をいただきました。



忘れられない物語

この世の深い森

昔、ある金持ちの男が森を通り抜ける途中、三人の盗賊に囲まれて金目のものをすべて奪われた。奪った後に盗賊の一人が言った。「こいつを生かしておいていいことがあるのか。殺すんだ」一人目がこう言いながら刀を振り下ろそうとしたまさにその瞬間、二人目の



午後 6 時 15 分、本館の礼拝室で夕拝を行い、賛歌朗唱、輪読、瞑想をしま

盗賊がそれをさえぎり、「こいつを殺す必要はないさ。さっさと縛ってここに置いていくんだ。そうすれば警察を呼びに行くこともできない」と言った。そうして盗賊たちは男を縄で縛ると、男を置いて立ち去った。

しばらくして、三人目の盗賊が金持ちのところに戻ってきて、「おお、とても痛いだろうにね。自由にしてやるよ」と言い、縄をほどいて森から連れ出してやった。大きな道路のそばまで来ると、盗賊は「この道をたどれば家に帰りやすいよ」と言ったが、金持ちは「私と一緒に来てください。あなたは私にとってもよくしてくれた。家族もあなたが来てくれれば喜ぶでしょう」と答えた。盗賊は「いや、だめだ。お前の家に行くのは無理だ。警察がきっと俺を捕まえるさ」と言い、帰り道を指さすと立ち去った。

さて、最初に「こいつを生かしておいていいことあるのか。殺すんだ。」と言った盗賊はタマスだ。タマスは滅ぼす。二人目の盗賊はラジャスで、人をこの世に縛り付けてさまざまな活動に巻き込む。ラジャスは人が神を忘れるように仕向ける。サットワのみが神に通じる道を示すのだ。思いやり、公正さ、信仰といった徳を生む。さらにサットワは階段の最上段のようなものだ。次にあるのは屋根だ。至高のブラフマンこそが人間の住処なのだ。三つのグナ

を乗り越えないとブラフマンの叡智に到達することはできない。

(『Sri Ramakrishna - Tales and Parables』より)

今月の思想

「人間とは、数多（あまた）の結び付きの集まり、一つに絡み合った多数の根であり

その花や果実がこの世界である」

(ラルフ・ワルド・エマーソン)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp